

各位

一般社団法人 国立大学協会
会長 永田 恭介

令和3年度補正予算における国立大学関係予算の充実等について(要望)

国立大学は、第4期中期目標期間を迎えるにあたり「第4期中期目標期間へ向けた国立大学法人の在り方について—強靱でインクルーシブな社会実現に貢献するための18の提言—」をまとめ、機能の強化と拡充をすすめる新たな決意を述べています。コロナ新時代において、国立大学は個々に、また総体として有する最先端の学術・科学技術を始めとする新たな学術知や、これまで培われてきた「知の資産」を結集し提供することで、地球規模の課題解決に取り組むとともに、災害や感染症等に対応する高度にレジリエントで持続可能な社会の構築にこれまで以上に貢献していく所存です。

とりわけ、国立大学は、デジタル技術を駆使して教育・研究・社会貢献の機能強化を行うとともに、人工知能(AI)技術やビッグデータ解析に長けた人材の育成等の中核拠点としての、また地域医療等の分野で活躍する人材育成や新たな産業創出などの地方創生を担うハブとしての役割を、今後一層強化していきます。

国立大学がさらにその機能と役割を新たに強化・拡張し今後も国民の期待に応え、社会の発展に貢献するための未来への投資として、令和4年度予算に先立ち、早急に令和3年度補正予算において以下のとおり国立大学関係予算の拡充を求めます。

- 1. 国立大学のキャンパスは、この度の新型コロナ対策では地域と連携しワクチン接種会場として活用されるなど、災害時等における地域の安心安全のための拠点であると同時に、新型コロナウイルス感染症制御のための研究拠点として個性豊かな研究を支えるとともに、精力的な研究成果の社会還元につなげています。こうした役割を果たしてきた国立大学がさらに施設の徹底的な省エネルギー化とZEB化を推進すること等により、我が国のカーボンニュートラル実現に向けた取組を牽引する先導的な役割を果たせるよう、補正予算を活用した施設・設備の整備のさらなる加速を求めます。**
- 2. 国立大学附属病院については、コロナなど感染症への対応をはじめ、地域医療の最後の砦として、デジタル技術を駆使した革新的医療にも対応する研究基盤設備・重症対応機器等の整備や医療機器の継続的な更新等、大学病院機能の維持・向上のための予算の拡充を求めます。**
- 3. コロナ新時代におけるデジタル技術を駆使した機能強化として、国立大学がデータ駆動型研究及びオープンサイエンス等を先導するとともに、国際的な視野で研究のオンライン化を推進し、世界に開かれた先進的な教育研究環境の確保を図ることが出来るよう、予算の拡充を求めます。併せて、教育研究環境を支える業務のデジタル化の推進のための経費の措置を求めます。**